

文化財

だより

ふるさと再発見

教育と文芸に寄与した

山内徳松校長

山内徳松氏は、明治二年に土岐郡明世村で生まれました。同二十五年に岐阜県の師範学校（教員養成学校）を卒業後、鶴里村の細野尋常小学校、土岐津町高山高等小学校で教師を勤めた後、明治三十年には、同校の校長に就任しました。

明治三十五年、東京帝国大学で農業教員養成の研修を受け、それ以後農業教育の専門家として、始まったばかりの実業教育の普及に努めました。恵那郡坂下実業学校をはじめとして、京都、新潟県佐渡の農業学校で校長を数年間ずつ勤め、大正十一年に故郷の土岐郡に戻り、土岐郡実業



山内徳松氏

学校（現在の瑞浪高校）の初代校長に就任しました。

各校で山内校長は、農業教育の指導者としてばかりでなく、農業実践にも重点を置き、養蚕や育苗など、そのほか指導は広範囲にわたりました。土岐郡実業学校では、人情に厚く誠実な人柄で学校経営を進めたので、校風は師弟のつながりが深くへだたりのない、なごやかなものでした。

昭和三年、五十九歳で退職した後は、漢詩、短歌、俳句、書画などの会を作り、その仲間たちと楽しみ、競い合い、土岐津町高山の家は、地域の多くの文芸を目指す人たちの交流の中心地となっていました。

実業教育開拓と地域文芸振興に一生を捧げた山内徳松氏は、昭和十八年九月に没し、享年七十五歳でした。

教育夢発信

下石小学校

『少人数指導の試み』

学校週五日制になり、授業時間数が減ったため、児童の学力低下が心配されています。本校では、その課題を解決するため、本年度から本格的に少人数指導を始めました。

基礎学力の定着を図る

きめ細かな指導で個性を伸ばす

この二点を大切にして、一年生から六年生までの算数の時間に、少人数指導を試みています。

本年度は、教師がチームを組み、指導にあたることを主に取り組んでいます。

各クラスの算数の授業に、少人数担当の教師が参加します。

通常は、学級担任が授業を進めていく中で、内容や、やり方が分からなくてつまづいている児童へヒントを与えたり、もう一度説明したりして援助しています。

ときには、少人数担当の教師が授業を進め、担任が理解不十分な児童を教えることもあります。

一人一人の児童に、常に目が行き届くように配慮して、授業を進めています。

四年生の「わり算」の授業では、筆算の仕方をすぐに覚えてしまう子と、そうでない子の差が大きく表れました。



そこで、学級の枠を外し、学年を『計算をじっくりコース』、『どんなコース』、『応用コース』の三つに分けて、授業を行いました。

『じっくりコース』では、計算の仕方を徹底的に行いました。『どんなコース』や『応用コース』では、たくさんの課題や応用問題にチャレンジしました。

こうしたコースの設定は、児童の筆算への自信を深めていくことにつながりました。

少人数指導を始めてまだ三カ月ですが、一人一人のつまづきに応じて教えることなど、きめ細かな指導ができる体制が整いつつあります。

今後もしるいろいろな指導の方法を探りながら、一人一人の児童が、「分かった」、「できた」、「算数が楽しくなった」といえる授業を創り出していきたくと考えています。

